

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 あさがおねっと大和田

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	57%	43%	学習スペースと遊びのスペースを区切っている	定員に達している時は、支援内容によっては狭く感じることがある
	2 職員の配置数は適切である	71%	29%		休憩時間や送迎時間帯は少なくなる
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	57%	43%	提示等で視覚支援はされている	トイレの段差があるので、改善が必要
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	86%	14%	毎日掃除をしている	隅々までは手が行き届いていない
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71%	29%		会議等で振り返りを行い、次の支援に改善を行い、本児に合った支援を心掛けている
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	定期的にモニタリングや面談を実施し、業務改善を行っている	全家庭対象に個別面談を実施していきたい
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	71%	29%	ホームページで公表している。	ただいたご意見を参考にし、支援に反映させていく
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	57%	43%	支援の助言をもらっている	外部評価の機会を増やしていきたい
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86%	14%	事業所内研修や外部研修に参加している	これまで以上に参加出来るよう、情報を発信していく
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	86%	14%	定期的にあセスメントシートを用いて、保護者のニーズを聞き取り、個別支援計画書に反映させている	個別面談や家庭訪問などを数多く実施していく
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	71%	29%		標準化されたアセスメントツールの使用は出来ない
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	86%	14%	ご家族や本人の意向に沿った支援内容を設定するよう努めている	さらに家族支援や地域支援が出来るよう、ご家庭や地域との連携をとっていく
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	個々に合わせた支援を行っている	全支援員が共通の認識のもと支援できるようにしていく
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%	案を出し合い、決定し進めている	活動プログラムに全支援員が参加出来るようにしていく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	同じ取り組みが続かないように、日々案を出し合っている	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	86%	14%	児童に応じて必要な支援を作成している	支援員体制によって、支援の進め方が異なることがあるため改善が必要	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	0%	100%		送迎スケジュール関係で、事前ミーティングできないことがある。今後は、スケジュール管理の見直しをしていく
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%	終了後に児童の振り返りを行い、情報共有を行っている。	全支援員に共有出来るよう改善していく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	43%	57%	変化等があった児童に対しては、記録をしている	全員の記録ではないので、可能な限り記録をし検証・改善につなげていく
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	71%	29%	事業所会議等で状況の変化などを確認している	全支援員が見直しの必要性の判断が出来るよう改善していく
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参画している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	常に情報共有に努め連携している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	43%	57%		対象児童がいないため
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	43%	57%		対象児童がいないため
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	出来る限り情報共有に努めている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	必要に応じて担当者会議等で情報共有と相互理解を図っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	57%	会議や電話などで情報共有し、助言を受けている	機会がまだまだ少ないため、専門機関からの助言をいただく機会を増やしていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	29%	71%		交流の機会がないため、今後は積極的に交流できるよう働きかけていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%		今後は積極的に参加していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時に当日の様子など伝え共通理解を持てるよう努めている	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	29%	71%	必要に家族支援を行っている	定期的にモニタリングを行い、保護者の困りごとなどを聞き取っていく必要がある	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	14%	利用契約時に行っている	説明が不十分な時があるため、丁寧な説明をしていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	個別支援計画書作成時に保護者に説明し、同意を得ている。必要に応じて計画の訂正を行っている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者から質問や相談があった際は、必要な助言を行っている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	定期的に保護会を開催し、保護者交流の場を設けている	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	相談があればその都度迅速に対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月に2回ブログで発信し、月に1回保護者向けに活配報告を配布している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	鍵付き書庫にて保管管理を行っている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	視覚ツールを用いている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	夏祭りなどで、地域の方に開放している	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	86%	14%	マニュアルを策定し、定期的に防災・防犯訓練を実施している	今後は発生を想定した訓練に近づけていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	86%	14%	避難訓練や防災学習を実施している	今後は発生を想定した訓練に近づけていく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	86%	14%	アセスメント時に聞き取り保護者に記入してもらっている。	全支援員が把握出来るよう指導していく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	71%	29%	アレルギーの聞き取りは保護者から得ている	医師の指示所に基づく対応は出来ていない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	概ねできている。情報を共有出来るよう心掛けている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止の研修を定期的実施している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	29%	71%		身体拘束を伴う児童が利用していない

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。